

岡山・備後

「アンネのバラ」
平和願い接ぎ木

幸千中生、パネル展も

ナチスによるユダヤ人大量虐殺(ホロコースト)の実相を伝えるホロコースト記念館が2025年に開館30周年を迎えるのに合わせ、近くの幸千中生徒たちが記念館や平和への思いを発信する活動に力を入れている。ゆかりのバラを増やす取

り組みを続けるほか、制作した紹介パネルの巡回展示も市内の図書館で始めた。

活動は昨年1月、アンネ・フランクの父オットーさんが日本に贈った「アンネのバラ」の接ぎ木を始めたのが発端。記念館のバラから接いだ約40本を校内の花壇で育て、今年1

月下旬、そこから100本増やした。平和への願いを広めようと、秋ごろから地域の小学校などに苗を配る。吹奏楽部はアンネを追悼する曲を練習し、1月に記念館の式典で披露。美術部員はバラなどを紹介するイラストパネル20枚を描いた。2月上旬に記念館

福山・ホロコースト記念館来年30年



アンネのバラの接ぎ木に取り組み幸千中生徒ら



アンネの肖像画などを小中学生に紹介する幸千中美術部員(左側)ら

展示品や開館経緯紹介

16年ぶり映像刷新

ホロコースト記念館 ユダヤ人難民に「命は、資料の追加や植栽の成長といった状況変化を踏まえ、展示品などを紹介する映像を16年ぶりにリニューアルした。

映像は約14分で、記念館の大家信理理事長がアンネの父親と出会う、1995年に開館した経緯を説明。吉田明生館長が館内を巡り、写真パネルや犠牲者の遺品を披露している。

基に、不自由な暮らしで彼女はどんなことを思っていたのか想像しながら色を付けた。記念館を訪れ、何があったのか学んでほしい」と話している。

パネルの展示は20日

で開かれた交流会では、部員5人が市外から集まったボランティアの小中学生に絵に込めた思いを伝えた。アンネの肖像を描いた2年三又結愛さん(14)は「白黒の写真を

まで北部図書館(駅家町近田)、3月5日18日に新市図書館(新市町新市)、同20日4月15日(かんべ図書館(神辺町川北))。来年度中に市内全館を巡る予定。(上田勇輝)



アンネが生前住んでいた、隣れ家の部屋を再現したところです。

(福山市城見町)など5-8001。(赤沢昌典)

ホロコースト記念館がリニューアルした映像の一場面

かけて制作。同館ホールなどで上映するほか、DVD化して300円で販売している。吉田館長は「記念館を深く理解してもらおうと導入編として活用したい」と話す。問い合わせは同館(084-95